

知っておこう！
新型コロナウイルスワクチン接種に
関すること



活用にあたって

1 学習展開例の内容等について

No.	タイトル	内 容
①	一人ひとりの選択が尊重されるために	・一人ひとりの選択の尊重 ・まわりの人の言動の影響
②	誰もが安心して過ごすために	・誰もが安心して過ごすことができる関わり方や態度 ・不安を受けとめようとする意識
③	気になる言動を止めるために	・同調圧力やマイクロアグレッションにつながる言動 ・不適切な言動に対する指摘と制止

※ 推奨学年は、すべて「小学校・小学部(高学年)～高等学校・高等部」です。

2 活用について

短時間でも活用していただけるよう作成していますが、学校の状況やクラスの実情に合わせて設問や展開を変更する等、柔軟に活用してください。

※ 本指導資料は編集しやすいよう、PDF ファイルとあわせて、Word ファイルを送付しています。

3 学習展開例の表記ルールについて

青字(*1)は、授業者向けのもので、以下の2種類があります。

- ・指導上の留意点
- ・予想される子どもの反応(*2)…斜体字で示してあります。

(*1) 小さめの文字で表記しています。

(*2) 「子どもの反応」の記述は、学習のねらいに沿ったものを中心に記載しています。

【関連資料】

- ・「新型コロナワクチンについて」(厚生労働省)
- ・「予防接種情報」(厚生労働省)
- ・「みえ新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイト」(三重県医療保健部)



學習展開例

展開例① 一人ひとりの選択が尊重されるために

【ねらい】・ワクチン接種をする・しないに関する一人ひとりの選択は尊重されなければならないことを確認する。
 ・接種に関して、まわりの人の言動が一人ひとりの選択に影響を与える可能性があることに気づく。

1 接種について、どんな思いや考えがあるのだろう。下のそれぞれの思い（理由）を想像して、出し合ひましょう。

接種したい人の思い（理由）	迷っている人の思い（理由）	接種したくない人の思い（理由）
<ul style="list-style-type: none"> ・感染を恐れなくていいから。 ・家族や友だちに感染させないために。 ・もし感染しても重症化しにくいと聞いているから。 ・みんな接種しているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな接種しているけど、副反応が心配だから。 ・接種した方が感染しにくいと思うけど、前に別のワクチン接種をして発熱し、苦しい思いをしたから。 ・接種に関して、よい情報と悪い情報を聞いているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接種して熱を出したり体調を崩したりしたという話を聞いたから。 ・安全性がよくわからないから。 ・前に別のワクチン接種をしたけど、感染して苦しい思いをしたので、ワクチンの効果を信じられないから。

- ・学習を始めるにあたり、【学習補助資料1】等を配付し、「自らの意志」で決めていいことを確認しておく。
- ・接種に関して、いろいろな思いや考えを持っている人がいることを確認したい。
- ・いろいろな思い・考えの背景に、個人の事情(身体的な理由や信条、保護者の判断等)だけでなく、まわりの人の言動や様々な情報の影響があることを確認しておく。
- ・ワクチンの接種について、不安を強めたり、逆に安心感を与えたりする発言を安易にしないよう、十分留意する。
- ・「迷っている人の思い（理由）」の葛藤を共感的に受けとめられるようにさせたい。

2 思っていたことと反対の行動をとった人がいます。その理由を想像して、出し合ひましょう。

(1) 「接種したい」と思っていた人が、接種しなかった理由

まわりの人(家族や友だち等)に反対されたから / 接種予定の日に体調を崩したから / ワクチンが体に合わないことが分かったから / 体質的に接種できないから

- ・《教職員用資料1》等より、「接種ができない人」「接種にあたって注意が必要な人」がいることを確認する。
- ・健康面で問題がなくても、まわりの人の言動から接種をしない選択をした人がいる場合があることを知る。

(2) 「接種したくない」と思っていた人が、接種した理由

まわりの人(家族や友だち等)に強く接種をすすめられたから / みんながするので、しないわけにはいかないと思ったから / 接種しないと、まわりの人から避けられる気がしたから / 接種しないと様々な活動に参加させてもらえないかもしれないと思ったから / 接種せずに感染したら、まわりの人から責められると思ったから

- ・「まわりに合わせよう」という思いが、選択に影響を与えることもあるということを確認する。
- ・「(1)(2)に共通することは？」等と問い、「まわり」の影響で思いどおりにできなかった場合があることや、まわりの影響が強ければ強いほど、自分の意志どおりにできなくなることに気づかせたい。
- ・「迷っている」「接種したくない」という人の中にはその理由について言いたくない(言えない)人がいることを伝え、興味本位で人に理由を聞くことの問題点を押さえておく。
- ・必要に応じて、《教職員用資料1》を参考に、接種できない人や接種に注意が必要な人に関する情報を伝え、「接種する」という選択肢がない人がいることに触れてもよい。(「接種できない人」について理解を深める学習は展開例②で提案)

3 接種について、一人ひとりの選択が尊重されるために、自分たちが気をつけることや自分にできることを出し合ひましょう。

接種に関して、自分たちの言動が、まわりの人に影響を与えることを自覚する / 接種する・しないについて、むやみに自分の選択を話したり、人にいずれかの選択を勧めたりしないようにする / 「打ってきた」「打たない」「みんな、打っている」「ネットでこんな噂が出ている」等を安易にまわりの人に広げない / 接種する・しないは個人の自由であり、一人ひとりの選択は尊重されるということを継続的に伝えていく

- ・意見が出にくい場合は、「もし自分だったら、まわりの人のどんな言動が自分の選択に影響するだろうか」など問い、具体的にイメージさせるようにしてもよい。

展開例② 誰もが安心して過ごすために

【ねらい】・ワクチン接種する・しないに関わらず、誰もが安心して過ごすことができる関わり方や態度について考える。
・接種できない人の思いを想像し、不安等を受けとめようとする意識を持つ。

・ここでは「クラス」で場面設定しているが、部活動や地域の活動等に場面設定を替えて実施することもできる。

- 1 クラスの中で、多くの人がワクチンを接種し、接種していない人が減ってきました。その中には、医師から止められていてワクチンを接種できない（接種しない）Aさんがいます。今、Aさんはどんなことを思っているでしょう。Aさんの思いを想像して書き出して、交流しましょう。

自分が感染して、みんなが検査を受けることになったり学校が休みになったりして、まわりの人たちに迷惑をかけることにならないか心配 / 友だちに「遊ぼう」等と言われたとき、もし自分が感染していたら、友だちに感染させるかも知れないと不安になる / 接種できないことで、みんなを不安にさせて申し訳ないと思う / みんなでなにかをしようとすると、自分だけ仲間に入れてもらえないかもしれない / 自分がいないところで「まだ打ってないらしいよ」と言われているかもしれない / 打てない事情を勝手に噂されそうで心配 / 接種した人たちが接種の話をしているのを聞くと、「あなたはもう打った?」「どうして打たないの?」と聞かれないか不安になる



- ・接種できない(接種しない)理由を、以下のように変更してもよい。(ア)別の薬を飲んでいて、接種できない。(イ)今までに予防注射を打って、救急車で運ばれたことがあったため、打たないことに決めた。(ウ)親から「このワクチンはまだ信じられないから、家族みんな接種しない」と言われている。等
- ・【学習補助資料1】等で、ワクチン接種は強制ではないことや、「接種できない人」や「接種に注意が必要な人」がいることを確認しておく。
- ・接種できない人や接種に注意が必要な人の理由を考えさせ、《教職員用資料1》を参考に、具体的な内容を紹介してもよい。資料の内容は2021年8月時点の知見に基づくものであり、紹介する際は、最新情報であるかを確認する必要がある。

- 2 誰もが安心して過ごすことができるクラスであるために、自分ができることや気をつけることを書き出し、交流しましょう。

接種についての話をクラスでするときには、接種できない人がいるかもしれないことを考える / 打てない(打たない)人の思いを想像し、よく考えて行動する / これまで通り、お互いに感染に気をつける / 接種していないことを理由に避けない / 「まだ打たないの」「いつ打つの?」等のことばに、打てない人や打たない人は傷つくかもしれないので、そのような話をしない / 興味本位で打たない理由を質問したり、話したりしない

- ・「接種しないこと」を理由に責められるようなことはあってはならないことを押さえたうえで、学習をすすめる。
- ・意見が多いほど、複数の視点によって安心して過ごせる環境をつくっていくことができるということを確認する。
- ・接種する・しないに関わらず、誰もが安心して過ごすために自分が気をつけることを考えさせたい。
- ・たくさんのアイデアを出し合い、その中で、実際にできることを具体的に考えるようにさせたい。また、自分にはなかった考えに着目させ、してもらいたいことは人それぞれ異なることに気づかせたい。他者の考えから発想を広げ、特に接種していない人が安心して過ごすことができる関わり方や態度について考え、接種しない選択を受けとめ、尊重しようとする意識を持たせるようにしたい。
- ・子どもの実態に応じて、Aさんが接種しない理由を具体的に設定し、Aさんが安心してできることばを具体的に考えさせてもよい。その際、考えたことばかけをペアになってロールプレイをしたり、クラス全体で交流したりしてもよい。

- ・学習のまとめとして、一人ひとりがワクチンを接種することができない子どもや接種を望まない子どもの存在や心情に配慮した言動を意識することが大切であることを確認する。また、ワクチン接種が感染防止の有効な対策であるものの、感染を完全に防ぐことはできないことをふまえ、接種している・していないを問わず、マスクの着用や密を避ける行動、手指の衛生等の感染対策は引き続き行う必要があることを確認しておきたい。

展開例③ 気になる言動をとめるために

【ねらい】・接種を推奨する言動が、同調圧力やマイクロアグレッション(*)につながる可能性があることに気づく。
・不適切な言動の問題点を指摘したり、制止したりする方法等を考える。

- ・子どもの発達段階や実態等に応じて、設定をクラスや地域のスポーツ少年団等に替えてもよい。
- ・展開例①②の学習を行ったり、最初に【学習補助資料1】や《教職員用資料1》を活用したりして、接種は強制ではないことや接種できない人がいること等を確認しておくことが望ましい。

1 つぎの文は、部活動後の会話です。AさんとBさんのまわりには他の部員もいます。



Aさん

感染してみんなに迷惑をかけたくないからワクチンを打ってきたよ。副作用もなかったし、みんなも打つといいよ。

ぼくももう打ったよ。打っていない人が感染したせいで、自分たちの学校が大会に出場できなくなったら、いやだなあ。打っていない人はできるだけ外出しないでほしいなあ。



Bさん

(1) 二人の会話で、気になるところに線を引き、出し合しましょう。

- ・以下のような点に気づかせたい。
 - (A・Bの発言に)接種できない人やこれまで接種していない人の理由等を考慮せずに言っていること。まわりの部員に、「感染は迷惑行為」という印象をあたえていること。接種できない部員に、疎外感をあたえていること
 - (Aの発言に)他の人のために思って伝えた発言が、まわりの人にとっては接種するべきだという圧力に感じるかもしれないこと
 - (Bの発言に)自分たちが大会に出ることだけを心配していること。接種していない人の行動を制限するようなことを言っていること
- ・上記のようなことが、接種できない人や接種していない人に対する同調圧力やマイクロアグレッションになり、その人たちの悩み等を生む原因になることを理解させたい。
- (*)する方には相手を傷つけたり差別したりする意図はないけれども、される方には「否定・侮辱・疎外」といったメッセージとなるような言動。『人権教育サポートガイドブック』(P.10)を参照。

(2) あなたが二人の話を聞いていたら、どんなことを言いますか。吹き出しに書き込んで、出し合しましょう。



(Aさんに)接種できない理由がある人や接種しない人は、居づらくなる場合があるよ。だから、そんな言い方は気をつけた方がよいと思うよ
(Bさんに)部員の中には接種できない理由がある人がいるかもしれないよ / ワクチンは全員が絶対に打たなくてはいけないものではないよ / 打つ、打たないは、個人の自由だよ / 接種した人もしていない人も、これからは感染しないように気をつけなさいよ / 接種していない人に外出してほしくないという考えは、差別につながってしまうと思うよ

- ・(1)の活動で気づくことのできた問題点を相手にどう伝えるかを、「自分なら」という視点で考えさせたい。
- ・考えたことを出し合うことで、いろいろな角度から二人に働きかけられることに気づかせたい。
- ・相手に直接伝えることを難しいと考える子どももいる。そのような子どもには伝えたいことを考えさせたり、伝えられなかったらどうしたらよいかを問いかけ、教職員や保護者に伝えることを考えさせたりしてもよい。

2 学習をして気づいたことや考えたことを、出し合しましょう。

接種することを当然のように話をすると、接種できない人や接種しない人に疎外感をあたえてしまうことがある / まわりの人が接種について自分と同じように考えていると思いきや、違う考えの人を非難したり、批判したりしてしまうことにつながる / 接種を強制するつもりはなくても、相手には「接種するべき」だと勧められているような印象をあたえてしまうことがある / 言っている人はなかなか気づきにくいと思うので、気づいたまわりの人が指摘したり制止したりすることが大切だ

【発展的な学習として】

- ・次のような会話に変更し、同調圧力やマイクロアグレッションの影響についてより明確に考えさせてもよい。
Aさん:「感染してみんなに迷惑をかけたくないからワクチンを打ってきたよ。まだ打っていない人、いたかな?」
Bさん:「みんな打っているから、自分も打ってきたよ。これでひと安心だ」
- ・教職員と子どもの会話でも起こりうることであるため、教職員の研修として活用してもよい。

【学習補助資料1】 接種を受ける際の同意

新型コロナワクチンの接種は、国民の皆さまに受けていただくようお願いしていますが、接種を受けることは強制ではありません。しっかり情報提供を行ったうえで、接種を受ける方の同意がある場合に限り接種が行われます。

予防接種を受ける方には、予防接種による感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について理解した上で、自らの意志で接種を受けていただいています。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをすることのないようお願いいたします。

「新型コロナワクチンの接種についてのお知らせ」（厚生労働省）より抜粋
（太字・下線は、三重県教育委員会事務局人権教育課による）

《教職員用資料1》 ワクチン接種できない人・接種に注意が必要な人

【ワクチンを接種することができない人】

- 37.5℃以上の発熱をしている人(*1)
- 重い急性疾患にかかっている人
- ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症(*2)の既往歴のある人
- 上記以外で、予防接種を受けることが不適當な状態にある人

(*1) 37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではない。

(*2) アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

【ワクチンを接種するに当たって注意が必要な人】

- 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患などの基礎疾患のある人
- 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状が出た人
- 過去にけいれんを起こしたことがある人
- ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人

【ワクチン接種後の出血に注意が必要な人】

- 抗凝固療法を受けている人
- 血小板減少症または凝固障害のある人

参考：「新型コロナワクチンQ&A」（厚生労働省）

※ 上記のような情報については、更新されている場合があるため、活用の際には確認が必要です。

2021（令和3）年8月発行
三重県教育委員会事務局 人権教育課
〒541-8570 津市広明町13番地
電話 059-224-2744（市町支援班）
059-224-2745（県立学校班）
FAX 059-224-3023